

2015 11/3



<http://www.kisokobe.com>

神戸国際支縁機構(KISO)季刊誌

【発行人】 岩村義雄 <携帯 070-5045-7127>
 【事務局】 〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101
 Tel(078)782-9697 Fax(078)784-2939
 E-mail:kiso@mbe.nifty.com
 【石巻支所】 阿部捷一
 〒986-2121 宮城県石巻市渡波町3-5-37
 Tel(0225)24-3107
 E-mail:cp.abe@royal.ocn.ne.jp
 年4回 2月、5月、8月、11月
 購読料 一部320円+送料80円(年ぎめ 1,600円)

卷頭言

斎藤 ギルバート & 志磨

神戸の方々と石巻で出会つて1年以上になります。岩村先生は英語が達者です。フレンドリーなのですぐに石巻在住のフィリピン人たちと仲良くなります。岩村先生が英語でかけ、フィリピン人が日本語で返答している場面を何度も見かけました。思わず笑いをこらえました。去年までクリスマスはフィリピンの人たちで集まるという機会はありませんでした。

2014年、2015年のフクシマ訪問

WEB 神戸国際キリスト教会「牧師の拙論」から

2014年9月、福島県双葉郡の浪江町、双葉町、大熊町、富岡町を訪問。当時、浪江町からの国道6号線は検問が厳しく、防護服でないと入れませんでした。

案内役の五百井正浩「真宗大谷派災害対策本部ボランティア委員長」住職、勝村弘也「神戸松蔭女子学院大学」、名誉教授、豊原正尚副住職たちを含む機構のメンバーたちは富岡町から退却している吉田信西、願寺住職(57歳)と夫人淳子さん(双葉町光善寺出身)の案内でも帰還困難区域に行きました。浪江町で予め入村許可をとり、ひとりひとり身分証明書を提示しなければなりませんでした。人づ子一人住んでいない廃墟の街は同じ日本とは思えず、別世界でした。店の看板、道の標識、家は倒れたままです。海岸線は津波に襲われ、大きな船が生い茂った荒野に乗り上げています。真新しい家の付近には牛の大好きな糞がころがっています。酪農を営んでいた人たちは強制的に退去を命じられました。家族のように生きてきた家畜を置き去りにしなければなりませんでした。泣く泣く見捨てた豚が野生化して、イノシシと仲良く

なっていました。

動物のうめき

飼い主がいなくなつた牛、豚、鶏は自分で餌を得なければなりません。

鶏は自分で餌を得なければなりません。地震で破損した無人の家のすき間から入り込みます。



2014年9月3日 富岡町にて

いた。それぞれが教会にお祈りに行つた際、顔を合わせていただけでした。神戸国際支縁機構と交流も兼ねてクリスマス会を昨年開きました。一緒にフィリピンダンスをしたり、お料理を食べたりと素晴らしい1日と一緒に過ごりました。岩村先生は英語で話せました。今年も田植え、稲刈りや脱穀を体験させていただき、11月23日には交流会、そして12月にはクリスマス会が樂しいです。神戸の方たちともっと仲良くなれたらいいなと思います。石巻在住の中国人、ベトナム人、アメリカ人の生活を気にかけてくれる岩村先生に本当感謝しています。

植物のうめき

福島県はかつて米所として全国に知れ渡るほどおいしいお米ができました。浪江町、双葉町、大熊町、富岡町の住民が避難している南相馬市は福島第一原発の北8~40kmに位置します。南相馬市では8400ヘクタールの内、津波により2642ヘクタール(31.5%)の農地がだめになりました。南相馬市の農家は生き残るために安全な米づくりと試験的に実証栽培米に取り組みました。原町区の相馬太田神社そばに試験水田(実証田)がありました。

農林水産省も作付け、水田整地に費用を助成していました。しかし、1kgあたり180ペケ

レルを超える放射性セシウムが検出されました(「福島民友」2014年7月15日付)。つまり食べるべばくる放射性セシウムがあるということです。基準値を超えるとコメは売れません。2015年、9割が飼料用として用いられていました。しかし、1kgあたり180ペケレルを超える放射性セシウムが検出されました(「福島民友」2014年7月15日付)。つまり食べるべばくる放射性セシウムがあるということです。基準値を超えるとコメは売れません。2015年、9割が飼料用として用いられています。生産者は「風評被害」により福島県産を食べてもらえないなると嘆きます。しかし、福島県農民連の根本敬会長は「風評とは根も葉もないことをいう。我々の農作物は根にも葉にも放射性物質を受けられた。

「実害だ。」と加害責任をあいまいにする用語の使い方

味があります。イノシシの5倍の繁殖力があり、一年に2回母親が10頭ずつ出産します。つかまる箱わなをあちらこちらで見かけます。

イノシシ、イノブタは放射能濃度が高く、食用にはなります。

福島県農民連の根本敬会長は「風評とは根も葉もないことをいう。我々の農作物は根にも葉にも放射性物質を受けられた。」と述べました。農作物である植物もうめいでいる



ANN NEWS 2014年3月10日付



南相馬市の実証田 2014年9月3日

ます。

次ページに続く

第55次東北ボランティア

第55次東北ボランティア

林ボランティア班は大川小学生たちが植えた大川小学校の隣にある「みやぎバットの森」で汗を流します。その森は楽天球団の選手が使うバットのアオダモの苗木を2005年に植えたことが始まりです。機構は2013年から取り組んでいます。林ボランティア班を現場で指導してくださるのは木村貞一さん（78歳）。津波で、姪とその娘さんが石巻市南浜町でいのちをなくしてしまった。木や自然についてどんな質問もユーモアたっぷりに参加者たちに説明されます。

3日目、8月19日、福島県郡山駅で五百井住職と合流します。福島県を訪



大川小学校



大川小学校

問うるに際して、3年連続でお世話になつてます。阪神・淡路大震災の時、神戸市長田区の玉龍寺は被災者にとり、避難場所でした。遠洋航路を経て船がやつと見いだす灯台のように働きをされました。五百井住職は後藤由美子僧侶（第20次）と連絡をとり、福島県で子どもを育てる苦悩の母親たちと連帯する働きを展開しています。



郡山公民館 8月19日

株式会社 チュチュアンナ
代表取締役社長

上田 利昭

tutu anna™

MiYOSHi

ミヨシ石鹼株式会社

〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
 TAKENAKA

〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-1

〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



「ヒューマニティ・ファスト」
日本アハマディア・ムスリム協会



究所の南俊治さんは、家をなくした子どもたちや、学校などの施設のために設計図を書きました。現在、その設計図に基づいて、現地の牧師たちが着工しています。「空から見ても、ヒトデの形をしたデザインはこの国にぴたりです」とアイザック・ピーターマンは笑顔で語ります。

バヌアツにスタートアップ・ハウス

3月15日に
襲つたサイクロン
「パム」は、南半
球オーストラリ
アの東側にある
バヌアツを襲い
ました。人口24万人のこの国
首都ポートビラ市に神戸国際支
縁機構は訪問。現地の要望にし
たがつて、子どもたち、とりわけ
孤児のこ



バヌアツ緊急救援募金

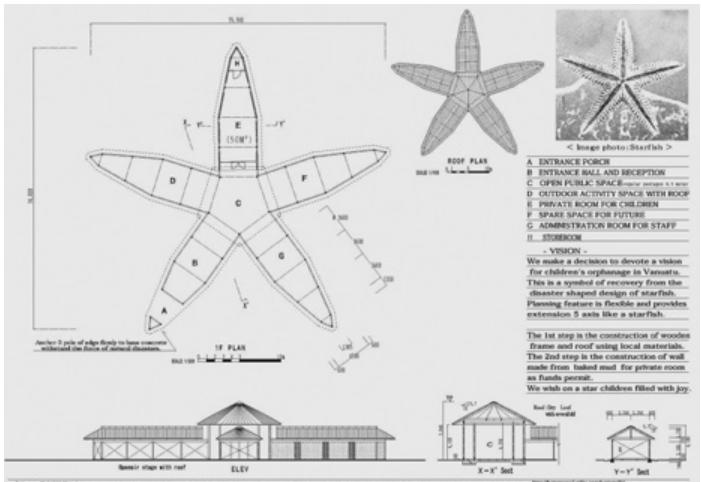
設ために救援金が必要です。現在152万円不足しています。現地のバヌアツ大統領たちも期待しています。皆さまのご協力がなないと実現しません。

A newspaper clipping from the Hyogo Prefectural Government website. The main headline reads "アツの被災児童に養護施設を 神戸の建築士が設計" (A man designs a foster facility for severely affected children in Kobe). Below it, another headline says "被災のバスアツに「子どもの家」" (Rebuilding the Bus Aツ with 'Children's Home'). The article discusses the challenges of rebuilding a bus stop that was severely damaged by the disaster, including the need for a more durable structure and the importance of creating a safe space for children.

バヌアツ救援募金をアピールする各紙



バヌアツの孤児たち



Starfish-House全体図



ネパール緊急救援募金

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズに阪神・淡路大震災を上回る大地震地震発生。死者が8千人を超えていました。5月12～17日に第1次カトマンズ入り。第2次、8月30日～9月7日に、学生たちと現地入り。

機構は、親や家を失った子どもたちや、「ダリット層 Dalit」「触れるけれど離れる人間」と差別されているネパールの貧しい人たちのためクリスマス特別募金を求めています。孤児の施設建設を現地の要請に従い、救援金が必要です。

クリスマス、新しい年を空腹のまま過ごすことのないように皆さまの暖かいご支援をお願いします。

2015年4月25日、ネパールの首都カトマンズに阪神・淡路大震災を上回る大地震地震発生。死者が8千人を超えていました。5月17日に第1次カトマンズ入り。第2次、8月30日～9月7日に、学生たちと現地入り。

今後も復興支援続ける

東日本大震災支援のボランティアとして、宮城県石巻市で活動を続ける神戸国際支援機構の村上裕隆さん（25）＝神戸市垂水区＝は、「これからも支援を続けていきたい」と話す。

学2年から自宅に引きつたが、東日本大震災生した際、「自分を変える」とボランティアで津波被害を受けた人との会話を苦手で、何度もえらせる活動を続けるうちに、多くの交流するようになり、は積極的に現地の復興に携わる。「復興が進もう貢献したい」と少なう葉に決意をじしませた。



村上裕隆君 「産経新聞」 2015年7月6日付





鬼怒川水害ボランティア

森 花梨 (第42、50、丹波水害)

本田寿久事務局長をはじめ、村上リーダー、リピーターたち、とりわけ4、5回参加してきた大学生たち西田怜奈さん、本田博之さん、佐野高校生8名など、総勢16人が9月10日の鬼怒川、宮城県大崎市の渋井川の水害ボランティアに向かいました。参加者のひとり、兵庫県立八鹿高校の垣尾舟汰さんの報告は、KBHのニュースレターにもとりあげられました。

特別寄稿

[神戸国際支縁機構]

東北ボランティアに参加して

八鹿高校3年生 垣尾舟汰



実際参加した感想ですが、一番大きかったのは、同じ日本に住んでいてここまで知らないことがあるのかということです。私たちは報道やメディアから日々情報を見て過ごしていますが、やはり限界があるのだと強く思いました。門脇小学校での衝撃。みたこともない小学校の状況に思わず息をのみました。画面に囲まれて生活する現代の若者に、画面や写真からは伝わってこない何かが確実に伝わってきました。それは僕だけでなく、他に参加していた高校生のみんなも同じ感覚だったと思います。また、私たちは人が何人死んで何人が避難しているという「数字」にこだわりすぎているということに気づきました。人の命は1か0かなのに、それらを累積し規模を推し量る。なんだかそんなことで「すごい大変だ」とか「苦しいだろうな」とかという感情が作られていました自分に腹が立ちました。1人の人間が命を落としていること、その家族や親戚、関係している人の、数字には表せない、悲しみ、苦しみ、悔しさ…。もしかしたら言葉にも表せないのかもしれません。そういったことを抜きにして「数字」という普遍的な概念的な事で感情が作られていることを私たちは反省しなければならないと思いました。

何が復興かということを考えさせられました。最初に行った門脇小学校の前で岩村代表がおしゃられたことが心から離れません。「震災から4年半経ち、今日車でここまでくる時に見たのものは何ですか?イオン、K's電気、多彩な飲食チェーン店、我々が住んでいる街と変わらないものが新しく建ち並ぶようになりました。どうでしょう。今、東北地方は復興していると思いますか?」おそらく、これから日本が「東日本大地震」という歴史を背負っていくのと同じように、僕も代表の言葉を忘れないでしょう。それほど心に響きました。

2日目に向かった栃木県日光市鬼怒川上流では、被災された伊藤直樹さん(80歳)の貴重なお話を聞くことができました。人間はやはり「油断」が命取りになると。誰しも大丈夫だと思ってしまうのですね。自分は大丈夫と思ってしまうことが一番危険だと思い知りました。本当はもっともっと自分の身体を痛めつけて

でも、被災された方の力になりましたので、時間が関係上それが叶わざ残念ではありました。順調に作業が進み、少しでも早く被災された方が普段の生活に戻られることを心から願っています。

実際ボランティアと
いう形で作業をしたりする時間は少なかったですが、それ以上に現場に自分で行って、見て、感じで、心が動いたことにとても意味がありました。まさに「忘却にあらがうボランティア」となりました。

今回、神戸国際支縁機構様にご協力をいただき、このような貴重、かつ素晴らしい経験をさせていただいたことに最大限の感謝の気持ちを表したく思います。長い、長い道のりを運転してくださった、本田寿久事務局長、および大学生の本田博之さん、スケジュールの管理他様々な場面でお世話になった村上裕隆リーダー。たくさん声をかけてくださいました、4、5回参加してきた大学生の西田怜奈さん、森花梨さん。何より、こういった機会を私たちのような者に与えるという活動を創始された、岩村義雄代表。その他、お弁当や現地の活動に協力してくださった皆々様に心より感謝したいと思います。この気持ちは僕自身が近い未来この神戸国際支縁機構の活動に協力することで、恩返ししたいと思っています。是非それまでこの素晴らしい活動を続けていただき、またもっともっと周りの人間に認知され、大規模な活動になることを心より願っています。本当にありがとうございました。

「KBH ニューズレター No.72」 2015年10月10日付

お詫びと訂正

第11号 第三面の画像キャプションの記載に誤りがありました。正しくは次の通りです。

(誤) 村田充八 → (正) 村田義雄

読者の皆さんにお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。岩村義雄

炊き出し用にコメ、野菜、水などの ご協力を感謝します

五百井正浩(真宗大谷派災害対策本部ボランティア委員長)、
横山豊宥(天台宗無障金剛院住職)、後藤由美子僧侶(第20次)、フードバンク関西、
コストコ、耕支縁グループ(岸本豊、山本勝、上原俊基、河合敏行)、森岡忠義、橋元治、
岡部和香、あっぷふあーむへ 炊き出し班長 楠元留美子



2014年、石巻市祥心会の5つの施設を訪問
庄司慈明市会議員は祥心会に案内。
三木晴雄氏(ミヨシ石鹼株式会社)提供のクリスマスケーキを5か所の施設や高齢者、孤児たちに提供。

趣旨に賛同してくださる方は、何口でも結構ですので、ご協力をお願いします。

本会員は、一口2,000円/1年 賛助会員は、一口5,000円/1年

・郵便振替 口座 00900-8-58077
加入者名 一般社団法人 神戸国際支縁機構

・三菱東京UFJ銀行
462(三宮支店) 普通 3169863
神戸国際支縁機構 岩村義雄

海外の災害緊急募金には必ず「国名」と「地域」と書き添えてください。

編集後記

昨年は東北ボランティアに参加したメンバーと兵庫県丹波水害、兵庫県青少年認定制度、今年2月にはデュオ神戸で神戸国際支縁機構の出展を担当し、他の団体とも交わることができました。第56次(9月)に石巻で傾聴ボランティアをしました。いろいろなお話を聞き、人に思いやりを示す自分の姿は、中学教員を志している動機とつながります。阪神・淡路大震災だけでなく、東日本大震災、丹波水害の証言記録を通じて「次世代に自分の経験を語り継げる」こと、教壇に立つ日に活かしたいと願っています。口先だけでなく行動のたいせつを学んでいます。

西田 怜奈

(社)神戸国際支縁機構

・ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

・被災地への支援物資もお願いします。

会員(年度4月~翌3月)の皆さんには、季刊誌などをお送りします。
事務局長 本田 寿久